

#### 『鹿児島県史料集』とは？

『鹿児島県史料集』は、郷土資料の保存を図るとともに、地方史の研究や県民の文化向上に役立てることを目的として、昭和34年度から刊行しています。2023年3月現在、第61集まで刊行しています。

◇鹿児島県立図書館ホームページにて、PDFデータを公開しています。

鹿児島県立図書館（本館）>貴重資料>鹿児島県史料集

◆『鹿児島県史料集』は、販売しておりません。

◇既刊行のものは、すべて当館で所蔵しており、貸出や複写が可能です。

◆国立国会図書館、鹿児島県内の市町立図書館・大学等附属図書館へは、発行の都度送付しています。

#### 『鹿児島県史料集』刊行状況

No.	史料名	内 容	執筆者	刊行年度
第23集	新修舊鹿児島藩領国・郡・郷・村・浦・町附上巻	本書は、「諸郷村附並浦附」「薩隅日琉諸郷村名附」「薩隅日並琉球高辻帳」を収載したものである。	原口 虎雄	昭和57年度 (1982)
第24集	新修舊鹿児島藩領国・郡・郷・村・浦・町附下巻	本書は、「薩摩国・大隅国・日向国・琉球国郷村高帳五冊」「薩隅日惣高並郡郷村調」「薩隅日地理纂考抄」「日向地誌抄」を収載したものである。	原口 虎雄	昭和58年度 (1983)
第25集	三州御治世要覧	宝暦五年に編纂された12巻本と同書に追筆増補し安永7年に作られた40巻本があるが、本書では後者の40巻本の中から、巻35以下の付録に相当する部分（「年代記」「御分國之巻」「御家格御政治向」「當時御役人」）を収録した。	宮下 満郎 桑波田 興	昭和59年度 (1984)
第26集	桂久武日記	本書は、幕末・維新期に薩摩藩の家老として重要な役割を果たした桂久武の文久元年から文久三年までの「大嶋渡海日誌」「大嶋滞在日誌」や、慶応元年の「上京日記」、明治五年の「都城県在勤日記」「東上日記」等をまとめたものである。	村野 守次	昭和60年度 (1985)
第27集	明赫記	本書は、島津十五代藩主貴久公から第十七代藩主義弘公までの、九州各藩の割拠時代の記録で、特に島津勢の肥後攻め、福岡の岩屋城の攻防等は、他の史料に比して詳細に記述されている。	宮下 満郎	昭和61年度 (1986)
第28集	要用集 上	本書は、薩藩藩政の要務に関する諸制度等を事項別にまとめたものである。全六巻中一巻～三巻を上とした県史料集第一集「薩藩政要録」は元来原名を「要用集」と称し、文政九年の資料によっているが、本書は嘉永4・5年の資料によっている。	芳 即正	昭和62年度 (1987)
第29集	要用集 下	本書は、薩藩藩政の要務に関する諸制度等を事項別にまとめたものである。全六巻中四巻～六巻を上とした県史料集第一集「薩藩政要録」は元来原名を「要用集」と称し、文政九年の資料によっているが、本書は、嘉永4・5年の資料によっている。	芳 即正	昭和63年度 (1988)

第30集	桂久武書翰	本書は、幕末・維新期に薩摩藩の家老として重要な役割を果たした桂久武の書翰をまとめたものである。	村野 守次	平成元年度 (1989)
第31集	本藩地理拾遺集上 薩摩国	薩摩藩の地誌に関する史料として田尻種甫によって編纂された史料である。大部分が享保以前の史料であるが、「薩摩国」上巻、「大隅国」中巻、「諸縣国」下巻の三巻ものである。本書では、「薩摩国」を収載した。	桐野 利彦	平成3年度 (1991)
第32集	本藩地理拾遺集下 大隅国 諸縣国	薩摩藩の地誌に関する史料として田尻種甫によって編纂された史料である。大部分が享保以前の史料であるが、「薩摩国」上巻、「大隅国」中巻、「諸縣国」下巻の三巻ものである。本書では「大隅国」、「諸縣国」を収載した。	宮下 満郎	平成4年度 (1992)
第33集	江夏十郎関係文書	程朱の学を修め、斉彬公に仕へて頗る眷顧を被ったとされる江夏十郎が藩主斉彬に出した書簡・上書の類がまとめられた史料。斉彬の集成館事業に関係するものが多い。	山田 尚二	平成5年度 (1993)
第34集	示現流関係史料	本書は、「示現流聞書喫緊録附録系図」(本館所蔵)「東郷重位関係諸記録」(東郷重位関係文書) (東郷家所蔵)「東郷重位関係文書」(旧記雑録所収)「示現流関係諸記録」(薩藩叢書所収)をまとめたものである。	宮下 満郎	平成6年度 (1994)
第35集	樺山玄佐自記並雜 樺山紹劍自記	本書は、戦国末期における相州家三州統一の功臣である樺山玄佐(善久)、紹劍(忠助)父子の残した史料を収載したものであり、戦国大名としての島津家の権力統一過程を如実に示す史料である。	晋 哲哉	平成7年度 (1995)
第36集	島津世祿記	別名を「大寛実録」ともいう。 島津貴久から光久の初政に至る島津家家伝を集成したものである。	山田 尚二	平成8年度 (1996)
第37集	島津世家	本書は、初代島津忠久(鎌倉初頭)から十八代島津家久(江戸初期)に至る薩摩・大隅日向三カ国の歴史である。 編著者は、島津家家臣、御記録奉行の郡山遜志である。明和六年に島津重豪の命により紀伝体により選進した。	畠中 彬	平成9年度 (1997)
第38集	譯司冥加録・漂流民関係史料	本書は、加世田郷小松原出身の鮫島正次郎が、通事の頭目ともいべき唐通事主取となるまでの一代を年代順に記録した「譯司冥加録」と享保九年から天保三年にわたる薩摩藩の漂流民に関する史料7点を収載したものである。	宮下 満郎	平成10年度 (1998)
第39集	薩摩藩天保改革関係史料 一	本書は、天保期の薩摩藩の財政・藩政改革に多大の貢献をした調所笑左衛門広郷の史料並びに改革方随従として直下で制作の発案・推進役として活躍した海老原清熙の日記や記憶に基づく記録報告書を中心に収載したものである。	尾口 義男	平成11年度 (1999)
第40集	薩藩学事一・鹿児島県 師範学校史料	本書は、西南戦争直後の明治11年3月から同29年までの明治期の学校関係資料を年代順に編集し、三巻にまとめた「薩藩学事」の第一巻を掲載したものと、明治9年から鹿児島師範学校に勤務した北条巻蔵の「備忘録」から師範学校時代を中心とした資料を掲載したものである。	宮下 満郎	平成12年度 (2000)
第41集	薩藩学事二・薩藩学事 三	本書は、西南戦争直後の明治11年3月から同29年までの明治期の学校関係資料を年代順に編集し、三巻にまとめた「薩藩学事」の第二巻第三巻を掲載したものである。	畠中 彬	平成13年度 (2001)